

## “ 欧州統合の課題としての 文化の多様性 ”

神戸大学  
ウラディミール・  
クレック



グローバル化により、もの・サービス・人・情報の流動性が高まり、技術発達により仮想世界も広がった。その帰結として我々ひとりひとりのアイデンティティも多様化している。欧州は国家

を超えた集团的アイデンティティ形成の試みを行ってきた。その際、共通の習慣や価値観のみならず、集团的記憶と社会的結束が重視された。社会的結束は、その共同体が危機的状況にあるときにも維持されるほどに強くなければならぬ。欧州の学者たちは常にヨーロッパのアイデンティティ強化を唱えてきた。しかし実際の統計を見るに、ヨーロッパへの帰属意識はそれほど高くない。この原因は、EUが出発時に方法的ナシヨナリズムの一形態を採ったことにある。EUは、単一民族国家の本質に属するもの全てに欠いている。政治的な同盟の設立・維持には、欧州市民の支援が不可欠であるため、マーストリヒト条約や互いのコミュニケーションの強化

(カレイドスコープやエラスムスなどの文教政策)によって、アイデンティティ政策の変更がはかられた。しかしそうした努力にも関わらず、近年でも一般住民のレベルでは、国境を越えた欧州市民同士の交流はほとんどない。

二〇〇〇年代初頭には、欧州憲法創設の動きがあった。これは、民族・文化に基づくアイデンティティではなく、政治的帰属意識に基づく「理性」を根拠としたアイデンティティ形成を理念に掲げていた。しかし前者は感情的で強力で、そう簡単に捨て去ることはできず、フランス・オランダの住民投票で欧州憲法は否決された。歴史的にヨーロッパは、他者との線引き、対立から一体感を醸成してきた。しかしグローバル社会において、そのような考え方をすれば、人権・平和・民主主義などを理念とするEUをむしろ根本から破壊する。理性のみに偏ったこれまでのEUのアイデンティティ形成には批判的なまなざしを投げかけつつ、感情と理性の双方から今後の展望が開かれることを願っている。

Profile  
ウラディミール・  
クレック  
Vladimir KRECK

● 神戸大学国際文化学研究所ヨーロッパ・アメリカ文化論コース特命准教授。ツイッタウ国際大学の博士号、ドレンデン工科大学で文化行政の文学修士を取得。主要研究テーマは、民族紛争、アイデンティティ形成、マイノリティ問題。ザクセン文化基金研究所フェロー、ドレンデン工科大学講師、ランデンブルク州政府機関におけるメディア政策と文化案件についてのアドヴァイザーなどを経て現職。